

JFEシビルが新中期計画

17年度 経常益、4割増の50億円

売上高は100億円に照準



藤井社長

JFEシビル(社長)

・藤井善英氏は15年度を始期とする3カ年の中期経営計画を策定した。17年度に現状の約4割増となる連結売上高1千億円、経常利益50億円を目指す。建築事業では、好調な大型物流倉庫を核に受注の幅を広げるほか、新たに開発した橋脚の耐震補強工法「橋脚ダンパー工法」やコンクリート補修・補強工法にも100人規模で採

用を行い、人員体制の拡充も図っていく方針。

新中期計画では、建築事業で売上高350億円を目指す。特色ある大型物流倉庫の受注を伸ばすとともに、需要の見込まれる冷凍冷蔵倉庫や薬品倉庫などのニーズを捕捉し受注の幅を広げる。さらにプラントエンジニアリング企業のニーズに積極的に対応すること、エンジニアの工場建設なども手掛ける。鉄鋼土建事業は、JFEスチールの製鉄所のインフラ改修などを確実に行うことで、売上高200億円の水準を確保する。

また、システム建築事業は売上高200億円プラスアルファが目標。現在好調な商業系の受注に加え、エンジ

系の工場の受注も目指し、ユーザーのニーズに柔軟に対応する。子会社のJFEコンフォームは神奈川の地場ゼネコンとして事業を展開しているが、今月1日に関西支店を開設したほか、東北支店の人員を拡充するなど東京事務所と合わせて3拠点体制を確立。システム建築の実行部隊としての機能も持たせるなど活躍の場を広げる。

ファイリビンの現地法人、リオフィルは地場の大型案件を受注するなど売上高50億円を安定的に実現できるように、ローカル人材を積極的に活用していく。全社の人員体制は、採用の継続とともに60歳以上の人材が活躍できるような賃金制度の改定も視野に入れる。重要継続顧客をさらに増やすなど安定的な収益の確保を図る。

技術面では、倉庫を中心に免震技術に磨きを掛けるほか、米国の建築ソフト「BIM」(ビルディング・インフォメーション・モデリング)の導入を確実に進めていく方針。